



第 687 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

※講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

日 時： 2023年1月14日（土）午後2時00分

来場開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

ライブ配信 URL：

<https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/89129446639?pwd=T2FBZGNXOTdBNVc0T1NNQy9NNWViZz09>



ミーティング ID：891 2944 6639 パスコード：279827

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
来場参加	500 円	専門医共通講習 1 単位（ii 貼付用） 学術集会参加単位（iv-B 貼付用）	* 単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要（60 分）
WEB参加	無 料	単位配布のご用意はございません。	



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：森岡一朗（日本大学医学部小児科主任教授）

主幹校：日本大学医学部小児科 担当：岡橋 彩

連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



第 687 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 東京大学小児科 井上毅信》

開会あいさつ 14:00 – 14:05

第 1 グループ 14:05 – 14:25 座長 米田 立 (東京大学医学部附属病院 感染制御部)

1) 悪性腫瘍との鑑別を要した頸部放線菌症の一例

○山元 志穂¹⁾、飯島 弘之¹⁾、永井 章¹⁾、山本 裕輝²⁾、庄司 健介³⁾、中野 雅之⁴⁾、窪田 満¹⁾
(国立成育医療研究センター 総合診療部¹⁾、同 小児外科²⁾、同 感染症科³⁾、同 病理診断部⁴⁾)

11 歳女児。頸部腫瘍を主訴に来院した。MRI 検査で 45 mm 大の造影効果のある T1・T2WI 高信号の腫瘍性病変を左胸鎖乳突筋内に認めた。悪性腫瘍も疑ったが、生検での病理検査と細菌培養で *Actinomyces georgiae* による頸部放線菌症と診断した。小児の放線菌症は稀だが、緩徐に増大する頸部腫瘍では本疾患も想起する必要がある。文献的考察を加えて報告する。

2) 3 回目のプラジカンテル投与で駆虫できた日本海裂頭条虫症の男児例

○新村 啓、堤 範音、堀 佳那江、山田 ひかり、斎藤 直子、千代反田 雅子、西亦 繁雄、
山中 岳

(東京医科大学病院 小児科・思春期科)

4 歳 5 か月の男児。排便時に黄色紐状の虫体を認め、虫卵検査で日本海裂頭条虫症の診断となった。診断の 1 年前に鰯寿司の摂取歴あり、以来肛門に掻痒感を自覚していた。外来でプラジカンテルを 2 回投与するも駆虫できず、入院にて下剤と浣腸で前処置を行い、3 回目のプラジカンテルを増量して投与し駆虫できた男児例を経験したので報告する。

第 2 グループ 14:30 – 15:00 座長 三谷 友一 (埼玉小児医療センター 血液・腫瘍科)

3) 標準治療抵抗例でロミプロスチムとリツキシマブを導入した難治性免疫性血小板減少症の 1 例

○近藤 紫織¹⁾、西村 聡¹⁾、神谷 尚宏¹⁾、武井 陽²⁾、有坂 敦子²⁾、星野 顕宏¹⁾、磯田 健志¹⁾、
金兼 弘和¹⁾、高木 正稔¹⁾、森尾 友宏¹⁾

(東京医科歯科大学 小児科¹⁾、東京都立墨東病院 小児科²⁾)

10 か月女児。小児免疫性血小板減少症 (ITP) は中等症の場合、ステロイドまたは IVIG 投与が標準治療である。難治性 ITP の場合、脾摘に代わりリツキシマブやロミプロスチムが third line として臨床応用されている。今回、標準治療抵抗性の小児 ITP に対してリツキシマブとロミプロスチムを併用して治療した症例を報告する。

4) COVID-19 罹患中に四肢浮腫をきたした遺伝性血管性浮腫の 1 例

○石川 仁太郎、稲毛 英介、福嶋 健志、三森 愛美、新井 喜康、中村 明雄、仲川 真由、
田中 裕子、神保 圭佑、遠藤 周、安部 信平、鈴木 光幸、清水 俊明

(順天堂大学 小児科)

16 歳の男子。小児期より遺伝性血管性浮腫 (HAE) の診断で管理していた。COVID-19 に罹患し第 3 病日に四肢浮腫が出現した。同日はオンライン診療で評価し、翌朝に救急外来陰圧室で C1-インアクチベーター製剤を投与し浮腫は軽快した。HAE 治療薬を常備し、かつ COVID-19 に続発した症例に常時対応できる施設は限られる。本症例の経過と COVID-19 流行後の HAE 管理戦略について考察する。

5) 原因薬剤中止後も症状の増悪を認めた薬剤誘発性ループスの一例

○寺田 朱織、小川 恵梨、大西 卓磨、武内 俊樹、高橋 孝雄

(慶應義塾大学医学部 小児科学教室)

13歳女子。多関節炎、抗核抗体高値から薬剤誘発性ループスと診断された。本疾患は原因薬剤の中止により数週間で軽快することが多いが、本症例では被疑薬であるラモトリギン中止後に新たなループス様症状（発疹、発熱）が出現した。全身ステロイド治療により症状は速やかに消退し再燃はなかった。被疑薬中止後も慎重な経過観察が必要であること、症状増悪の可能性について事前に患者・家族に情報提供することが重要である。

感染症だより 15:05 – 15:25 (講演: 15分 + 質疑応答: 5分)

講師 森野 紗衣子 (国立感染症研究所 感染症疫学センター)

教育講演 15:30 – 16:40 (講演: 60分 + 質疑応答: 10分)

「SIDS、そして子どもの死」 専門医共通講習 1単位

座長 宮川 美知子 (石川医院)

講師 窪田 満 (国立成育医療研究センター 総合診療部)

まず、乳幼児突然死症候群 (Sudden Infant Death Syndrome; SIDS) について簡単に説明させていただき、皆様が保育園や幼稚園の園医として、SIDSの予防についてどのように考えればよいのかをお話いたします。次に、小児科医として、どのように子どもの死と向き合えばいいのか、そして死因究明のために何ができるのかをお話します。最後に Child Death Review (CDR) にも少し触れたいと思います。

* * 休 憩 16:40 – 16:50 * *

第3グループ 16:50 – 17:30 座長 甘利 昭一郎 (国立成育医療研究センター病院 新生児科)

6) 胎生期に羊水過多を認めた Apert 症候群の一女兒例

○高見堂 正太郎、岩堀 真紀、東 みなみ、吉田 百合香、木村 太郎、及川 洸輔、村川 哲郎、城所 励太、中野 有也、阿部 祥英

(昭和大学江東豊洲病院 こどもセンター)

日齢0の女兒。在胎39週4日、3127g、Apgarスコア4/9点(1分値/5分値)で出生した。妊娠35週に羊水過多を指摘されたが、原因は明らかではなかった。出生時に大泉門開大、前額部突出、口蓋裂、両側合指趾症を認めた。頭部CT検査で冠状縫合の癒合を認め、Apert症候群と診断した。羊水過多を合併したApert症候群の症例が散見され、羊水過多の鑑別に本症候群が挙げられると考えられたため報告する。

7) 病理解剖から慢性特発性偽性腸閉塞症と診断した超早産児の1例

○中山 俊宏、羽生 直史、山田 舞、奈良 昇乃助、西袋 麻里亜、西端 みどり、菅波 佑介、山中 岳

(東京医科大学 小児科・思春期科学分野)

在胎26週、882gで出生した男児。日齢7に消化管穿孔を発症し、人工肛門を造設した。術後より経腸栄養を再開するも、消化管蠕動不良が持続し、経静脈栄養併用下に緩徐な体重増加を得るに留まった。日齢56に人工肛門閉鎖術を施行し、経腸栄養を再開したが、蠕動不良が遷延し、中心静脈栄養関連肝障害に加え、菌血症とDICを繰り返した。日齢169に肺出血を呈し、永眠した。病理解剖から慢性特発性偽性腸閉塞と診断した。

8) 画像診断に難渋した大動脈血管輪の症例

○秀野 公美¹⁾、橋本 佳亮¹⁾、渡邊 誠¹⁾、太田 恵介²⁾、鈴木 憲治²⁾、佐々木 孝²⁾、石井 庸介²⁾、鈴木 悠³⁾、長谷川 久弥⁴⁾、伊藤 保彦¹⁾

(日本医科大学 小児科¹⁾、日本医科大学 心臓血管外科²⁾、東京女子医科大学附属足立医療センター 小児科³⁾、東京女子医科大学附属足立医療センター 新生児科⁴⁾)

3 か月男児。啼泣後の咳嗽・窒息様呼吸が顕在化して血管輪・気管狭窄を疑ったが、超音波と造影 CT では右側大動脈弓を認めるのみであった。一方、気管支鏡検査で拍動性の気管圧排を認め、重複大動脈弓・左大動脈弓遺残（最終的には術野診断）として血管輪修復術を行った。血流のない血管輪でも気道圧排を起こす可能性があり注意が必要である。

9) 成長ホルモン治療を行ったビタミン D 依存性くる病 I 型の 1 例

○高橋 侑利、松岡 尚史、安田 祐希、鈴木 恵子、大谷 智子

(東京女子医科大学附属足立医療センター 小児科)

15 歳男子。生後 6 か月以降からの成長障害と運動発達の退行を主訴に 1 歳 6 ヶ月時に当科を受診し、各種精査を行いビタミン D 依存性くる病と診断した。活性型ビタミン製剤治療を開始し、8 歳から成長ホルモン治療を併用し、臨床所見、身長伸びの改善を認めた。また、男子の妹は早期診断により生後 4 か月より治療を開始し活性型ビタミン製剤のみで良好な成長発達が得られている。

◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【プログラム抄録集の郵送停止について】

以前よりご案内しておりますが、2023 年 1 月の第 687 回講話会よりプログラム抄録集は郵送いたしません。

地方会ホームページから各自ダウンロードしていただきますようお願い致します。

開催案内メールを学会バンクご登録アドレス宛にお送りいたしますのでご確認をお願いいたします。

なお、引き続き郵送をご希望の場合は、事務局までご連絡をお願いいたします。

【年会費お支払いについて】

会員の皆様に新会員システム【学会バンク】利用開始のお知らせを郵送しております。

オンライン上で会員情報をご登録頂き、各自年会費の納入をお願いします。

2022 年度年会費を未納の方は必ず 2023 年 3 月末日までにお手続きをお願いいたします。

3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

今後の会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認をお願いいたします。

ご不明な点がございましたら事務局までご連絡をお願いいたします。

【次回以降開催予定】 2023 年 2 月 18 日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信

2023 年 3 月 11 日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信

2023 年 6 月 10 日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信

*会場の関係で 2023 年 5 月は休会となります。

【担当医局】 日本大学医学部小児科

連絡 ☎：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中は会場 03-6627-2151 へご連絡ください。

【東京都地方会 HP】

<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。